

平成29年度 佐賀県立杵島商業高等学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b> 「生き抜く力」を育む指導をとおして、生徒一人ひとりの優れた資質を伸ばし、経済社会の発展に寄与する有意な人材の育成を目指す。	<b>2 本年度の重点目標</b> 「想いを力に～ひたすらに ひたむきに～」をスローガンとして、 ① 体系的なキャリア教育を実施し、将来を見据えた進路意識の向上を図る。 ② 基礎学力の定着を図り、部活動や校外活動を通して、望ましい社会性を育成する。 ③ 自尊感情を高め、元気な挨拶や端正な服装、ルールやマナーを守る態度を育成する。 ④ ICT活用や国際交流を通して、広い視野を持った生徒を育成する。 ⑤ 「ひまわりプロジェクト」を通して『命』と向き合い、ボランティア精神を涵養する。
--	---

**3 目標・評価**

① 体系的なキャリア教育を実施し、将来を見据えた進路意識の向上を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○進路指導	進路指導体制の充実	・全職員に進路についての関心を持ってもらう。	・企業訪問や作文指導など、進路担当以外の教員も企業訪問や作文指導等に参与する。 ・学校説明会やキャリア教育講演等を知らせる。 ・業者による模試や適性検査、進路希望調査の結果等、生徒に関する情報を知らせる。
		勤労観・職業観の育成と進路意識の向上	・各学年に応じた内容の実施。 ・「働く覚悟」を身につけるように将来を見据えた勤労観を育成する。	・学年主任と連絡を密にし、進路啓発セミナー等を実施する。
		ビジネス実践力の向上	・現場での実習を通して、ビジネス実践力を向上させる。	・3年次授業において現場実習を取り入れることで、学習の深化を図り、将来のスペシャリストの基礎づくりを行なう。 ・外部講師の講義により、専門分野の業界状況を把握させるとともに、社会で求められている人材を理解させ実践させる。

② 基礎学力の定着を図り、部活動や校外活動をとおして、望ましい社会性を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	わかりやすい授業の実践	・わかる授業のための指導方法の改善や工夫に努め、実践する。	・教科内研究、授業研究会を実施する。 ・少人数指導や習熟度別指導などを取り入れ、個別指導を充実させる。
	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	学習効果を高めるICTの利活用	・学習者用パソコンや電子黒板の有効活用を推進し、授業で電子黒板・学習PCの未使用率を65%以下にする。	・教科会議を定期的に行い、教科全体でICT機器を活用した教科指導方法を研究する。 ・5～10分の動画を見るだけの、簡単手間いらずの授業活用を紹介する。
学校運営	○教職員の資質向上	職員研修の充実	・授業でのICT利用が少ない教科や教員に、はじめの一步を踏み出してもらう。 ・すべての教職員が2回以上の研修を受ける。(情報モラル研修を含む)	・ヘルプデスク支援員等による個別研修を充実させる。準備が簡単で授業で使える教材を紹介したり、教員の要望を聞きながら支援員が教材作成の支援をする。 ・年間を通じての個別研修と、長期休業期間の希望者研修を実施する。
		教科指導力向上にむけた取り組み	・教師が自己研鑽に努め、「わかる授業を実施する」という意識を深めることで、生徒の学習意欲を向上させ、生きる力と豊かな人間性を育てる授業を実践する。	・6月と11月を授業力向上月間として、他の教諭の授業参観と話し合いを通して、授業力向上のきっかけとする。 ・校外での授業参観や研修への参加を奨励する。

③ 自尊感情を高め、元気な挨拶や端正な服装、ルールやマナーを守る態度を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○基本的習慣の確立	心身ともに健全な生徒の育成	・学校行事や全校集会などでの定時集合完了を目指す。 ・校門指導などにより、挨拶の励行及び学校の基本ルール、マナーを遵守させる。 ・地域に信頼される学校づくり	・集会などを通じ、心の教育を行う。 ・外部講師による研修会を実施し、他者に対する配慮や集団で生活するマナー・ルールの必要性を説く。 ・学校外での挨拶の徹底 ・新高校に向けて地域に愛される学校づくりの推進
	○生徒指導の充実	端正な服装・頭髪	・服装や頭髪を整える意味を理解させる。	・月一回の服装頭髪指導を実施する。 ・再検査および継続指導の徹底のため、毎週月曜日の継続指導を施す。
	●心の教育	思いやりの心の育成	・自己と他者との違いを理解し、互いに認め合う心を育成する。	・人権講話等を通して、意識の向上を図る。

④ ICT活用や国際交流を通して、広い視野を持った生徒を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○異文化交流	異文化への興味関心	・姉妹校である青岩高校と交流し、国際交流事業の継続及び充実を図る。	・青岩高校(韓国)への訪問を継続し、異文化理解や語学研修を実施する。来年度以降の交流方法についても青岩高校と具体的に検討する。

⑤ 「ひまわりプロジェクト」を通して『命』と向き合い、ボランティア精神を涵養する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ボランティア精神の育成	復興支援活動による豊かな人間の育成と社会貢献	・被災地への思いを風化させることなく、その思いのこもったひまわりを栽培することで命の大切さを考えさせる。	・被災地よりいただいたひまわりの種を全校生徒で大切に育てる。また来年度に向けて新たな種を採取する。さらにこの活動を各地域へ発信することでその輪を広げる。
		教育相談体制の充実	・クラスに馴染めない生徒や問題を抱えた生徒の支援を充実する。	・スクールカウンセラーと協力体制を取りながら、教員間の共通理解を図る。 ・担任会、ケース会議等で情報を共有し、支援体制を整える。
		心の健康づくり	・心と体の健康維持のための助言・支援を行う。	・全校集会などで命の大切さや思いやり等をテーマに指導する。
●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・対応	・他者に対する思いやりの心を育成し、いじめのない学校生活を目指す。	・いじめアンケートを学期1回実施し、情報の共有化を図る。	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	健康の自己管理	・疾病予防や健康の保持増進を理解し、自ら実践できる能力を育成させる。	・健康診断で健康状態を把握しながら予防・受診の指導を行う。 ・保健だよりの発行、保健講話を実施し健康に関する知識を習得させる。
学運校営	○情報化と校務の効率化推進	情報の共有化	・調査報告や生徒情報を、全職員で共有する。 ・校内LAN、SEI-Netを有効活用する。	・校内ネットワークやSEI-Netメール・メッセージ機能を活用する。 ・出席統計、指導要録、各種試験成績、生徒情報などを職員間で共有したり、職員間の連絡を校内LANやSEI-Netで行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目